

2023年11月12日(日) / 説教者：神谷武宏

説教：「神の国はこのような者たちのもの」

聖書：マルコによる福音書10：13～16

人々は、「イエスに触れていただきために」(マルコ 10:13a)子どもたちを連れてきた。すると「弟子たちはこの人々を叱った」(13b)のであった。しかしそれを見たイエスは弟子たちに憤り、「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」と、子どもたちを祝福する。子どもを祝福するイエスの姿として覚えたい。

今朝はもう一つの視点からも見ておきたい。ここに登場する子どもたちは、はたして親に連れられて祝福して頂くというある意味裕福な家庭の子どもたちであると言えるのか。9章でも子どもたちが登場して来たが、当時のガリラヤの子どもたちの多くが、戦災孤児で町々にはストリートチルドレンがたくさんいたと理解されている。ここでの子どもたちもまた、そのような子どもたちではないのかという見方もある。「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。」とあるが、親が連れてきたとは記されていない。ここの「触れて」は原典でアプトーとある。実は古いギリシア語でこのアプトーは、他の意味で「縛る、結びつける、つかまえる」という意味がある。ここは人々が近所の悪ガキ、戦災孤児、ストリートチルドレンの子どもたちをイエスのところに連れてきて、イエスにつかまえてもらうために、イエスに縛ってもらうために人々が子どもたちを連れてきた。この子どもたちをたしなめてやってください。もうどうにも手がつけられんですよと。厄介者扱いされる子どもたちが、戦災孤児でストリートチルドレンとなって生きていくために悪さをする。町の人々がイエスのところにお灸でも据えてもらおうとして連れてきたということ。そこですぐさま、弟子たちがこの人々を叱ったということになる。

沖縄でもしばらく戦災孤児の施設があった。ある養護施設はもともとそのような戦災孤児の施設の一つであった。私は以前、その養護施設に学生時代にアルバイトをしていた時期があって(もう40年前のことだが)、その時に聞かされたことであるが、昔からその施設の付近で、子どもが問題を起こすと、すぐにその施設の子どもたちが疑われたと聞きく。実際によく問題を起こしていたからであるが・・・。

しかしイエスは、「神の国はこのような子供たちのものである」と言う。子どもを抱き上げ、祝福される。そのように読み取っていくときに、また新たな御言葉の響き、尊さを感じるものではないか。今、世界の子どもたちは、幸せだろうか。イエスの愛する子どもたちが真の平和から遠ざかっている情勢を見せられている。祈り、守る責任が私たち大人にはある。今月、国連「子どもの権利」条例34年を迎える。(神谷)